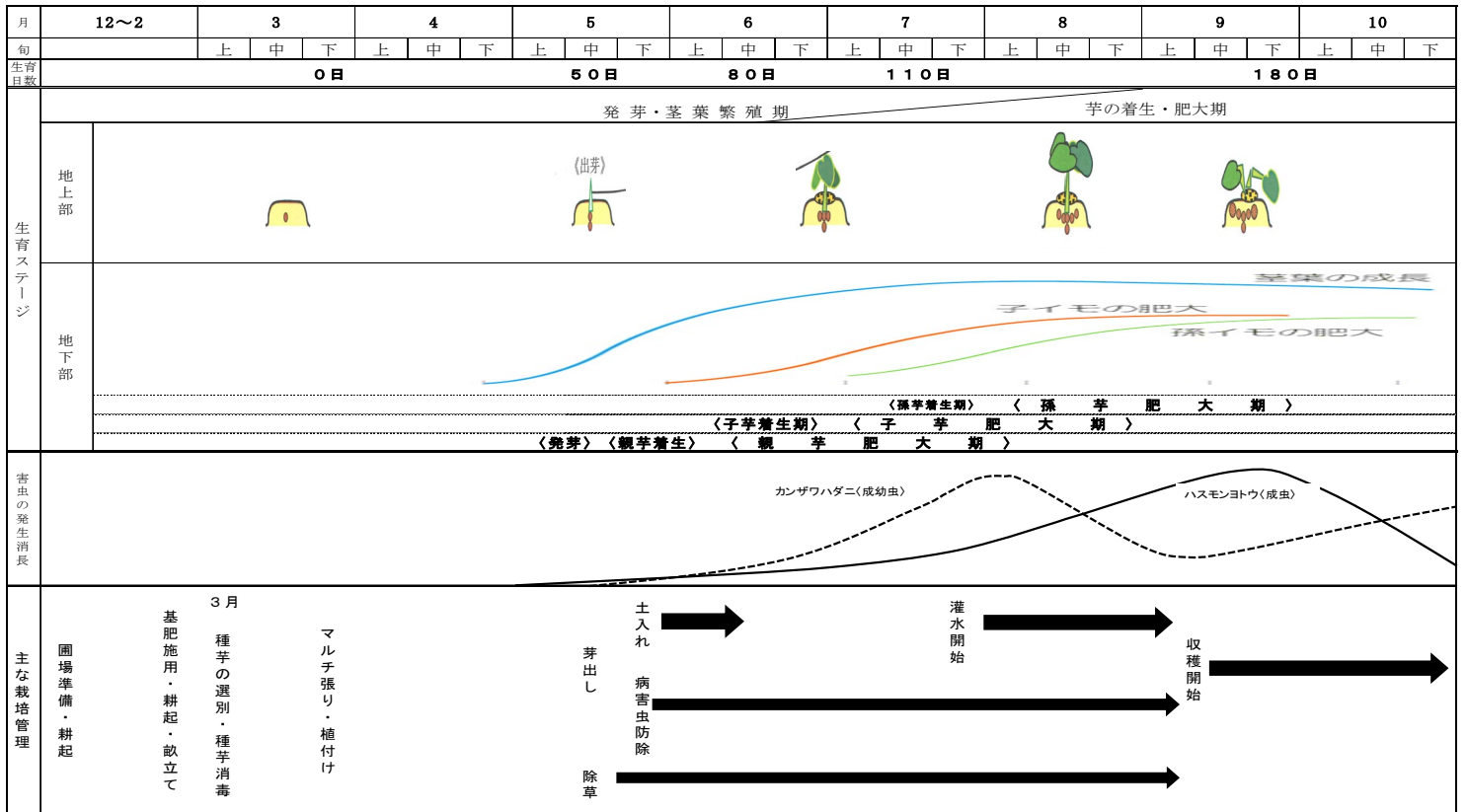


さといも全期マルチ栽培指針

JA 周桑 里芋部会



1. 品種 愛媛農試V2号 (商標名:「伊予美人」)

2. 圃場選定

- ・排水がよく、水が引けるほ場を選ぶ。排水不良田は、品質・収量に影響
- ・水の確保が増収のポイントとなる。
- ・連作障害回避のため、3～4年の輪作とする。

3. 栽培方法 全期マルチ栽培 (栽培期間通してマルチ栽培)

4. 目標収量 3t/10a

5. 栽培管理について

1) 圃場準備: **年内**

- ・完熟堆肥3t/10a・土壌改良資材を施用し、十分耕起する。
- ・早めの耕起・畝立ておよび植付け準備を行い、適期での植付けを心掛ける。

2) 種芋の選別: **3月**

- (1) 10a当り約200kg 準備する。
- (2) 病害予防のため、種芋消毒 (ベンレートT等) を行う。
- (3) 品種固有の形状を確保するため、定期的な種芋更新を行う。(3～5年)
- (4) 機械植付に適した種芋の選別

3) 施肥設計 (kg/10a) **植付前**

- ・全量元肥一発肥料

	全量	元肥	肥料成分		
			窒素	磷酸	加里
完熟堆肥 (牛糞)	3,000	3,000	牛糞以外を使用する場合は、豚糞1,500 鶏糞500に減肥		
苦土石灰	160	160			
苦土重焼燐	20	20	0.0	7.0	0.0
ケイ酸加里 (0-0-20)	40	40	0.0	0.0	8.0
【化成体系】 里芋元肥一発SSR012	140	140	28.0	15.4	16.8
【有機体系】 里芋一発有機入ペレットJIN	200	200	28.0	12.0	16.0
化成体系 計			28.0	22.4	24.8
有機体系 計			28.0	19.0	24.0

(1) アヅミンの施用

完熟堆肥が施用できない又は少ない場合はアヅミンを40kg/10aを施用する。

4) 栽植密度 **植付前**

うね幅 (cm)	株間 (cm)	10a当り植付本数
110～120	33	2,755～2,525

5) マルチ張り **植付前**

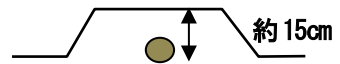
- (1) 土に適度な湿りのある状態で、畝に密着するよう黒マルチを張る。

【黒マルチ 材質: ポリ・厚さ: 0.02mm・幅: 120cm】

- (2) マルチを張った後は、湿害を防ぐために必ず排水溝を設ける。

6) 植付け **3月～**

- ・植付け深さは15cm程度とする。
- ・害虫対策として、アクタラ粒剤5もしくはアドマイヤー粒剤1を施用する。



7) 芽出し・芽かき **5月中旬～**

- ・マルチに引っかかり、芽が出ない株は適宜手で芽を出す。
- ・2本以上発芽しているものは、早めに整理し1株1芽とする。



8) 土入れ **5月下旬～**

- ・子芋着生から孫芋着生前までに一輪管理機により土入れ (写真) を行う。(気候・植付け時期により生育が遅れている場合は生育状況により遅らせる。)

9) 除草 **5月中旬～**

- ・土入れや薬剤散布により早めの除草対策・作業を行う。

10) 灌水 **7月中旬～**

- ・梅雨明け前後から畝間灌水を行う。
- ※畝をマルチで覆っているため、少雨では灌水効果はなく畝間灌水が不可欠
- ・地温の低下した夕方に灌水を開始し、翌朝には水が引いている状態にする。
- ・灌水の目安は、夏季で晴天が続くと3日おきに灌水する。

11) 収穫 **9月中旬～**

- ・親芋の本葉が3枚以下になる頃から収穫を始める (9月中下旬頃から)。

12) 芋の貯蔵・伏せ込み **12月下旬～2月中旬**

- ・年明け出荷用や次年度種芋用は、寒波による凍傷を防ぐために、マルチの上から「籾殻」「土」および「不織布」で覆い、防寒対策を十分に行う。

13) 病害虫防除 **栽培期間全般**

- ・薬剤の効果を上げるために、予防的防除を心掛ける。
- ・使用基準を順守し、適切な防除体系を設定し発生を抑制する。
- ・防除前には十分な灌水を行っておく。
- ・防除は夕方に散布を行う。